

平成 28 年度第 2 回仙台市食育推進会議 議事録

開催日時	平成 29 年 1 月 23 日（月）15 時 30 分～17 時 30 分
開催場所	仙台市役所本庁舎 2 階 第二委員会室
出席者	
委員 （順不同・ 敬称略）	相澤かず子 蘆澤義章 小島芳 亀山季代子 熊谷和裕（会長職務代理者） 齋藤浩美 白川愛子 菅原哲平 鈴木直子 高澤まき子（会長） 中野俊昭 早坂椒子 平間正浩 南文子 渡辺淳子 佐々木洋 福田洋之 石川浩史（森下農林部参事代理出席） 大越裕光（木 村総務企画部長代理出席） （欠席委員：青沼清一）
事務局	市民局 消費生活センター所長 健康福祉局 次長 保健衛生部長 生活衛生課長 健康政策課長 子供未来局 子育て支援課長 運営支援課長 経済局 農林部参事（委員代理） 農食ビジネス推進室長（代理出席） 中央卸売市場業務課長 若林区保健福祉センター 衛生課長 太白区保健福祉センター 家庭健康課長 教育局 総務企画部長（委員代理） 総務企画部参事兼健康教育課長 生涯学習課長
次第	1 開会 2 あいさつ 3 議事 （1）平成 28 年度食育推進事業実施状況について

	<p>(2) 仙台市食育推進計画第2期 後期計画策定に向けて</p> <p>(3) その他</p> <p>4 閉会</p>
--	---

発言者等	
<開会> 進行	<p>皆様、お待たせいたしました。定刻になりましたので、ただいまから平成28年度第2回仙台市食育推進会議を開催いたします。はじめに会議の開催にあたりまして、高澤会長よりごあいさつをいただきたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
<挨拶> 高澤会長	<p>皆様、こんにちは。今年もまたどうぞよろしくお願ひいたします。食という漢字は「人を良くする」と書くとよくいわれておりますが、食に関わるさまざまな問題が起こっている現状で、はたして食は人を良くしているのだろうかと思ひます。</p> <p>「食育」ということがよく叫ばれております。さまざまな経験を通して、食に関する知識と、食を選択する力を習得して、健全な食生活を実践できる人を育てること。そのように育つことが食育といわれております。食べる力、すなわちそれが生きる力を育むという食育は、今後の未来に関わる重要な課題であり、まさに食育の危機は教育の危機でもあるといわれております。</p> <p>本日の会議では、仙台市食育推進計画にある4つの推進の柱に沿ってそれぞれの立場で取り組まれました内容をご報告いただきまして、情報の共有を図りたいと思っております。そしてご報告いただいた内容を、今後の取り組みの参考にしながら、一步一步、食育を推進していただけたらと思っております。どうぞよろしくお願ひいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。ここで本日の会議の成立についてお知らせいたします。現在19名の委員の皆様にご出席いただいております。過半数の出席となっております。仙台市食育推進会議条例第7条第2項の規定により、本会議は成立しております。また本日出席の市の職員につきましては、お手元に職員出席者名簿がございますので、ご確認ください。よろしくお願いいたします。</p> <p>続きまして本日の資料の確認をお願ひいたします。お手元の資料3枚目に会議資料一覧が入っております。資料1及び2は委員の皆様にご事前にお送りしたものでございます。本日お持ちでない方がいらっしゃればお知らせいただければと思ひます。</p> <p>また本日、鈴木委員より日本経済新聞の資料ということで、A4一枚のものが追加資料となっておりますので、ご確認くださいと思ひま</p>

	<p>す。それではこれからの進行につきましては、高澤会長にお願いしたいと存じます。よろしくお願いいたします。</p>
高澤会長	<p>それでは委員の皆様、どうぞよろしくお願いいたします。議題に移ります前に、まず議事録署名人の指名につきまして、私のほうから指名させていただきますのでよろしいでしょうか。それでは今回の議事録署名につきましては、幼稚園連合会の小島委員にお願いしたいと思っております。よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは議事に入りたいと思っております。議事の1、平成28年度食育推進事業実施状況についてでございます。仙台市食育推進計画第2期に基づき、「食べる力をみんなでアップ!」を基本目標に、そして4つの推進の柱を基にして、各主体において、また連携を図りながら、取り組みを進めてきております。</p> <p>資料1に基づきまして、平成28年11月末までの状況を各委員の皆様からご報告をいただきまして、その上で意見交換を行いたいと思っております。新規事業、拡充事業などを中心に、お一人あたり2～3事業ほどをピックアップして、報告をお願いしたいと思っております。</p> <p>たくさんの取り組みを実施している方もいらっしゃると思いますが、時間の都合上、お一人2分程度を目安に、また資料の記載ページも合わせましてお話しいただきたいと思っております。それでは活動の分野ごとにご報告いただきたいと思っております。はじめに医学や栄養の専門的立場から、仙台歯科医師会の鈴木委員にお願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>歯科医師会の鈴木でございます。ページは2ページ目、3ページ目となっております。ほとんどが従来の取り組みの延長なんですけど、新しいものとしましては、2ページ目の中ほどより下にございます3歳児カリエスフリー85プロジェクトになります。以前は歯科が関われるのが1歳半の健診ぐらいからでしたが、その時期には、食習慣が、いいものも悪いものも含めてある程度定着してしまっています。これをもう少し早い時期から食習慣の確立やお口の健康に関する啓発を、ということで、小児科での乳児健診のときに、虫歯予防や、お口の健康に関する冊子を配って、かかりつけの歯科に行ってもらって、そこで改めて、お口の健康にとって有意義なこと、あるいは虫歯の予防方法などをお話するという取り組みになります。まだ始まったばかりの取り組みではありますが、関心のある方は子どもを連れて来られますので、定着しつつある大変有意義な事業だと考えております。また、以前に比べまして、地域の区民祭りなどの機会に唾液検査をして、健康な食生活について啓発するという事業がふえております。以上です。</p>

高澤会長	<p>ありがとうございました。乳幼児期の食というのはやはり歯・口の健康と非常に関わりがあるというところがございます。それでは次に栄養士会の南委員お願いいたします。</p>
南委員	<p>栄養士会の南でございます。よろしくお願いいたします。栄養士会では大体従来どおり、例年どおりの内容で進んでおりますが、特に県民を対象とした公開講座では、講習会並びに調理実習の会を設けております。また、災害支援という事業の中で、健康相談、栄養指導を行っております。被災者の方は、段々と仮設住宅から復興住宅へ移られて来ておりますが、復興住宅に入っても、ほとんどの方が周り近所知らない方ばかりという中で、高齢者の方はますます家から外に出なくなっているのが現状でございます。そういった方々への健康相談として、今現在は月3回、3日間、南三陸方面に行っておりますが、29年度から4回にふやしまして、なかなか家から出られない方々をできるだけ外に出て来ていただくように、食育ということも含めまして、健康相談と兼ねた栄養指導をできるだけ多くの方々にやっていきたいと思っております。</p> <p>基本的には、看護協会が実際に南三陸方面に入られていますので、看護協会の下に私どもも一緒に活動させていただいております。今のところ、以上のような環境です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。被災者支援の中で、健康支援も行いつつ、食育も含めてということで、みんなで一緒に食べるということ自体でコミュニケーションが図れて、心の癒しの場にもなっているかと思えます。ありがとうございました。次に子どもたちやその保護者を対象に取り組んでおられる立場からご報告いただきます。それでは仙台市小学校長会の熊谷委員お願いいたします。</p>
熊谷委員	<p>資料は6ページになります。食を通じた健康づくりの実践ということで、学校では食に関する指導の手引きというものを基に、それぞれの学校の実態に合わせて、食に関する指導の全体計画、年間指導計画を作成して授業をしたり、行事を持ったりしながら、食育を進めているところがございます。</p> <p>今回は特に授業づくりのところで、たまたま本校向山小学校が今年授業を提供することになりまして、4年生の子どもたちに朝ごはんについての授業を行いました。バランスのよい朝ごはん、バランスばっちり朝ごはんというタイトルで、1つのクラスではじめ授業をしまして、それを近隣の15校ほどの栄養教諭や栄養士、あるいは食を進める給食主任というポジションの先生方に集まっていただいて、指導案についてこんなふうにしたほうがもっとよいのではないかというような話し合いを持</p>

	<p>ちまして、それからそれを仙台市教育センターの指導主事の先生にご指導いただいたりしながら、同じテーマでもう一度1組で授業して、その改善したものを今度2組でもう一度というような形で、担任の先生と栄養教諭とがチームを組んで、チームティーチングという形で実践しました。</p> <p>その成果を夏休みに行われた宮城県の全体の研修会の中で授業の様子などをビデオに撮ったものを提供して、全体で研究協議などをしてまいりました。子どもたちには授業で、普段の朝ごはんを見直して、改善したほうがいいところ、それを自分のものにするために、目標をそれぞれ立てさせて、1週間自分ができることをやってみましょうということで取り組みました。</p> <p>4年生の子たちの、自分なりの目標なので、たわいもないことがいっぱい書いてあるんですが、少し紹介しますと、「毎朝、お茶を飲んでいただけども、栄養のある牛乳を飲むようにする」とか、「飲み物を自分で考えて冷蔵庫から出して飲む」「具だくさんの味噌汁にすることをお母さんをお願いする」それから「チーズを買っておいてもらって、バランスを考えて、朝自分で出してきて食べる」というような、自分なりの目標を立てて取り組んだという実践を進めました。取り組み事例集のほうでまたお知らせできればと思っております。</p> <p>それから今日からそれぞれの学校で給食週間に取り組んでおります。今回は地場産品、地場野菜とか、仙台産の大豆などを使った取り組みが市役所のホールのほうでも紹介されていたかと思いますが、それぞれの学校で工夫をしながら、豆つかみ競争なども取り入れ、子どものアイディアを生かして取り組んでいるところでございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。自分なりに食を考えさせるという取り組みをされていらっしゃるということでございました。続きまして、幼稚園連合会の小島委員お願いいたします。</p>
小島委員	<p>仙台私立幼稚園連合会です。従来どおり、そんなに大きく変更することもなく、各園それぞれに畑から収穫したものを使っての調理であるとか、お母さんたちを巻き込んで、保護者と一緒にお味噌づくりをして、味噌汁をつくって食べるといった活動を行っております。</p> <p>今年、仙台私立幼稚園連合会の青葉区担当者会の中で、食育計画というのを今カリキュラムの中に盛り込むようになってきているんですけれども、食育計画の立て方がなかなかわからないといったようなお話がありましたので、私が講師となりまして、食育計画の立て方について、こんなふうにやってみたらどうだろうかということをお話ししたあと、青</p>

	<p>葉区の先生たちと一緒に食育についての情報交換も行いました。</p> <p>基本的には非常に一生懸命、食育については取り組んでおりますが、その内容がちょっとまちまちであったり、どういったところに観点を置いて、食育を行ったらいいのかわからないといったお話もありましたので、次年度以降、講師の先生をお呼びしたりしながら、食についてより一層、連合会自体で考えていけるような会を設けていけたらと思っております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。続きましてPTA 協議会蘆澤委員お願いいたします。</p>
蘆澤委員	<p>PTA 協議会です。活動といたしましては例年どおりという形になっております。ただ、こちらのほうには載せておりませんが、毎年PTA フェスティバルというものを仙台市協議会のほうで開催しております。フェスティバルでは様々な出店がありますが、その中で、地元の食材を使ったものを、子どもたちに提供している団体もありました。また、パネル展示では、各学校単位で様々なものを題材にして展示を行っているのですが、食育の部分で、給食の残食をゼロにするための献立の工夫といった内容のものもございました。大体そんな活動内容となっております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。保育所連合会早坂委員お願いいたします。</p>
早坂委員	<p>仙台市保育所連合会の主な取り組みについてご報告申し上げます。事業名1、保育所連合会栄養士研修会等でございます。栄養士研修会において毎年テーマを設けて、研究発表を実施し、成果を上げております。平成28年度は昨年度の研究テーマを継続して検討してまいりました。平成27年度に実施した幼児の家庭での食生活実態調査の結果から、課題とされた生活習慣と食事内容の関連、肥満やむし歯の状況と食事との関係について詳しく研究しております。</p> <p>また家庭での食事内容調査の結果と、平成27年度厚生労働省乳幼児栄養調査の結果を比較して、課題についても研究しております。結果については現在まとめているところでございます。合わせて家庭に向けて、健康的な食習慣の改善につながる情報や、取り入れてほしい料理を掲載したリーフレットを配布する予定でございます。</p> <p>保育所連合会栄養士研修会では毎年、栄養士の資質向上のための研修会を実施いたしております。今年度は保育所における食育のねらいと実践というテーマで、講話を受けました。子どもの年齢や発達に合わせた食育のねらいや実践、保育との連携などについて学び、食育計画の見直しを図り、保育所での食育推進に生かしております。</p>

	<p>2の事業名、保育所連合会給食担当者研修会についてです。調理実習は平成27年28年と継続して、給食での使用頻度が高い大豆や大豆製品について、おいしく食べるための調理方法や工夫を学んでいくために、子どもが喜ぶ大豆製品を中心とした献立をテーマに実施いたしました。</p> <p>大豆、きな粉、豆腐、豆乳など同じ大豆製品でもさまざまな食材を使用して、子どもが食べやすく工夫した献立の実習や、卵や牛乳、小麦粉を使わずに、食物アレルギーのあるお子さんでも食べることができる調理方法も学ぶことができました。研修で学んだ献立を保育園での給食に取り入れるなど、実践につながりました。以上でございます。</p>
高澤会長	ありがとうございます。いろいろと幅広くされていていらっしゃるって、また調査もされて、いつごろその調査結果が出る予定でございますか。
早坂委員	4月の予定です。
高澤会長	4月が楽しみでございます。ありがとうございます。次に地域住民の健康づくりのため、活動を続けていらっしゃる立場から、食生活改善推進員の相澤委員お願いいたします。
相澤委員	<p>仙台市食生活改善推進員の相澤でございます。宮城地区と秋保地区に分かれて活動を展開しております。10ページと11ページをお開きください。食育の日、毎月19日のアピールとして、宮城地区まつりに参加し、市民の方に地産地消の野菜でカルシウムたっぷりのお好み焼きを販売しました。10月23日の日曜日、2,900名の参加があり、大盛況でございました。</p> <p>続きまして具体的な取り組みのD-2の3番目でございますが、秋保の食生活改善推進員の取り組みで、毎年行っておりますよい食生活を進めるための料理講習会です。今年度は骨とカルシウム、食育についてなどの講話と調理実習をしております。15名の参加でございます。</p> <p>それから具体的な取り組みのG-1の2番目です。宮城地区の食生活改善推進会で親子の食育教室として、川前児童館の依頼で、はっと汁などの郷土料理を作る親子料理教室を行いました。親子で40名の参加があり、親子で楽しんで食べたそうでございます。</p> <p>11ページにいきまして、宮城地区の食改でございますが、シルバー認知症予防教室として、地域の住民と高齢者を対象として、低栄養予防、ロコモ予防、認知症予防をテーマとした調理実習による講習会を開きました。11月18日、宮城保健センターでの開催で17名の参加でございました。</p> <p>11ページ、秋保の食改と行政との連携の行事で健康のつどいの普及活動でございます。地域の各団体との事業である「健康のつどい」の会場</p>

	<p>において、郷土料理や地域の食材を紹介するブースなどを設置し、減塩予防を訴えながら、試食を通して、地域の方々に啓発をしました。</p> <p>今回の試食は豚肉の甘酢あんかけと水無月で、大変好評でございました。11月18日金曜日の開催で参加者は100名でした。この健康のつどいは、例年130から150名の参加がありますが、この日は他にも行事があったようで、いつもよりは少なかったようでございますが、参加者は全員、大変喜んでくれました。また、減塩についてもみんな気をつけているようでございますので、私たちも安心しておりました。以上でございます。</p>
高澤会長	いつも参加者は結構多いんですか。100名超えて。
相澤委員	そうですね。今回は太白区の事業と一緒にしまして、天気は良かったのですが、参加者が少なかったようです。でも100名でまあまあということで満足しております。
高澤会長	ありがとうございます。それでは健康で安心安全な消費生活のために活動している立場から、みやぎ・環境とくらし・ネットワークの菅原委員お願いいたします。
菅原委員	<p>12ページからご覧ください。みやぎ・環境とくらし・ネットワークです。こちらに挙げさせていただいた取り組みが3つほどありますが、まず複数の柱にまたがっております仙臺農塾になります。こちらは2016年の4月27日から11月30日までに5回の講座を実施しております。前回は報告させていただきましたが、社会人を対象にした大人の食育活動ということで実施しております。5回の講座で合計102名の方に参加していただきました。</p> <p>アンケートを取ったところ、20代から50代程度の男女が参加しているという結果になっております。</p> <p>13ページの推進の柱3の2番のオーガニック・ウィーク・センダイ2016という取り組みが、新しく取り組みましたものになります。ある特定の期間中にオーガニックや有機といった言葉を広めようという、広報キャンペーンを実施しました。</p> <p>生産者の方であれば有機の認証を取っている方や、将来有機の認証を取りたいということで活動されている方々を、ウェブ上で紹介したり、セミナーなどを開催するという方のイベントを紹介したりして、マスコミにもちょっと取り上げていただきました。オーガニックというものを仙台で広めようという活動で、こちらで把握している中では合計で17のイベントを開催して、参加者は800名ということで終了しております。以上です。</p>

高澤会長	かなりの人数の方々をご参加されていらっしゃるって、やっぱり興味持たれていらっしゃるんですね。このオーガニック・ウィーク・センダイ。
菅原委員	そうですね、私が見た中では若い世代の方々や子連れの方が結構多かったように見えました。
高澤会長	ありがとうございます。ひとつ質問させてもらってもいいでしょうか。12 ページのところの4 Rエコクッキングとありますが、この4 R、リユース、リデュース、リサイクル、あともう1つ何ですか。
菅原委員	リデュース、リユース、リサイクル、あとリヒューズです。その4つで、ゴミの減量、エコクッキングなので生ごみの減量を目的として、食材を余さず利用したり、地産地消を意識して取り組もうということと呼びかけながら、実際に料理をしてみるという講座になっております。
高澤会長	ありがとうございました。それでは健康づくりから地産地消まで、幅広い活動に取り組んでおられるということで、宮城県生活協同組合連合会の渡辺委員お願いいたします。
渡辺委員	<p>宮城県生協連の渡辺でございます。会員生協の中からみやぎ生協、大学生協の事業、活動について報告したいと思います。まず15 ページのところの一番下のほうをご覧ください。若い世代が食育に関心を持って、自主的な食育活動につなげるということで、大学生協のところなんです。東北地方の大学生協の組織活動の大学生が、大学生協の食育推進をどうするかを検討する食育推進委員会というのを、東北地方で結成しまして、その具体的な活動として指導しております。</p> <p>具体的には大学生協の食堂の中で、ごくごく牛乳ディスプレイコンテスト、東北大生協で使われているキャベツの産地体験の実施状況などを、大学生協の中で食育の活動として見える化を図って、大学生が主体的に食育活動について取り組む活動を推進している取り組みになります。</p> <p>続きまして20 ページ、地域の食文化を伝えるということで、生産者や流通関係者による情報発信、それから産地を盛り立てる活動を応援するというので、前回のときも若干報告させていただきましたが、みやぎ生協の新ブランドの「古今東北」が2015年の11月に立ち上がりまして、現在2016年の12月の時点で100 アイテムを超えて、被災した産地の復興を応援する商品や東北産の食材のおいしさを発信する商品の開発を通じて、東北地方を応援するという商品をぞくぞく開発して、販路拡大をしております。</p> <p>情報提供ですが、今日まで、エスパルの地下の改札口において、古今東北のフェアを開催しております。全国からおいでになる方へ、東北地方の魅力ある食材、食文化を発信するというので、東北の玄関口でフ</p>

	<p>フェアを開催しております。</p> <p>また販路拡大ということもこういう復興の商品はとても大事なんですけども、新たな取り組みとしては、インターネットの通信販売を通して、東北地方の食材、選りすぐりの食材を発信するという活動も行っておりまして、事業の拡大を行っておるといふ報告でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。古今東北、100 商品もあるというふうに示されていますけど、例えばどのようなものがございますか。</p>
渡辺会長	<p>例えば被災したところのお酒を絞って、原酒のお酒とか、それから被災した石巻の缶詰工場での商品開発。それから亙理の津波で浸水した田んぼを利用して、おそばの栽培をして、そのそばの販売とか、岩沼・亙理のほうで、被災した田んぼを使って、そこに菜の花を植えまして、そこから油を抽出したドレッシングもあります。あと加工品だけじゃなくて、生食も取り扱っているということです。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。それでは子どもをはじめ、さまざまな世代の消費者を対象に販売の立場から活動しているというところで、チェーンストア協会の中野委員お願いいたします。</p>
中野委員	<p>チェーンストア協会で、特にヨークベニマルを中心とした取り組みが21 ページになりますスーパーマーケット体験学習、これも例年どおり実施しておりまして、小学生を対象として、5A DAY 協会のプログラムを使った体験学習を行っております。また公民館に出向いて食育事業を実施しておりますが、ちょっとまだアピールが足りないということで、こちらもう少しふやしていかなければと思っております。</p> <p>あと一番下書いておりますように、こちら全店での取り組みになりますが、地場野菜を中心に特に入り口の側に、常設の売場づくりをしておりまして、お客様からの反応はかなり良いコーナーになっております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。それでは農業・生産・流通という立場からの取り組みについて平間委員お願いいたします。</p>
平間委員	<p>こんにちは。仙台農業協同組合の平間と申します。よろしくお願いたします。まず一番目に J A 仙台食農教育プランの中の学校給食の取り組みについてなんですが、後ほど仙台市の経済局さんのほうからも詳しい説明があるかと思いますが、今年の特徴としましては、学校給食の食材の中に大豆を取り入れていただいたというところが大きいと思います。大豆につきましては、北海道に続きまして宮城県は大産地となっております。仙台市内でも約 1,000ha ぐらいの規模で大豆の作付をしております。それを食材に取り入れていただいたというところが大きいか</p>

	<p>と思います。</p> <p>ここの参加者数の状況という欄のまると仙台の取り組みの②が小学校8校となっておりますが、間違っております、こちら9校になってございますので、訂正をお願いしたいと思います。</p> <p>続きまして中段の2番目に書いております、JA仙台食農教育プランの学童農園の関係であります、今年新たに取り組んだものとしたしましては⑤ですね。⑤の内容といたしましては、岩切地区のどろんこ保育園というところと今回取り組みを考えまして、岩切地区の農家の方の畑で、夏野菜の収穫体験をしていただいたというところであります。</p> <p>また変わったところでは⑦の曲りネギの講習で、(テレビ電話)と書いております。こちらは小学生との食育を兼ねた交流ということなのですが、実は仙台市内ではなくて、茨城県の東海村立白方小学校とのテレビ電話でのやり取りがあったということでもあります。</p> <p>こちらは小学校の教科書の中で仙台曲りネギを知ったということで、学校の先生から電話がありまして、「曲がっているネギって何なの？」ということで、ちょっと一回見てみたいということで、テレビ電話でやりとりしましょうということになりまして、太白区長町の生産者の方の圃場をお借りしまして、そちらで11月と12月の2回ですね、曲りネギの生育ステージの場面と、あと収穫の場面を、テレビ電話でつなぎまして交流したという中味になってございます。説明については以上です。</p>
高澤会長	実際に曲りネギを試食するという機会はあったんですか。
平間委員	まだ送ってはおりませんが、何回か手紙でのやり取りもあったりして、非常に興味を持っているようなので、ぜひ食べていただきたいと考えています。
高澤会長	ぜひ機会を持っていただけるといいですね。ありがとうございます。続きまして大学での取り組みにつきまして、宮城大学の白川委員お願いいたします。
白川委員	<p>宮城大学食産業学部の白川でございます。資料の25ページをご覧ください。大学ですので、特に若い世代が中心として活躍する食育ということで、大学生が食べる力をアップすることを目標に、食育を推進しております。1から3までが例年行っている食育活動で、1番は食育の事業を通して、食の知識を提供して、学生がよりよい食生活、健全な食生活を送れる手助けをしております。</p> <p>2番目としましては一般市民向けということで、講演会等を行いまして、みやぎ生協の学習会の講師をさせていただきました。今年度は日本型食生活で元気にというお話と、あとは山田豊齢大学のほうではやはり</p>

	<p>年齢のことを考慮いたしまして、低栄養予防とロコモティブシンドロームの予防を中心に、食事と運動に気をつけて、元気に過ごしましょうというお話をさせていただいております。</p> <p>あと1番のほうで先ほど言い忘れたのですが、大学だけではなくて、高校のほうにも出前授業を行っておりまして、高校生の食生活の改善のために高校のほうにも伺わせていただいております。</p> <p>3番目としまして、教員免許更新講習会というのを本学で実施しております。学校における食育の推進では、栄養教諭の人数が少ないので、それぞれの先生自身が自分の担当の科目の中で、食に関するものを教材として使う、あるいは給食を生きた食育の教材として使っていただくことで、より学校での食育を推進、実践していただけるよう、講習会の中でも実際に使えるような資料を提供しております。</p> <p>4番目としまして、これは新たに追加させていただいたのですが、本学の森本素子教授が中心に行っておりまして、もともとは仮設住宅の被災者の方と一緒に、大学で学生たちが栽培している野菜と、教員等の持ち寄った食材を使って、スープやパンをつくり、それを無料で提供しているという活動です。</p> <p>これは若い世代、特に大学生の朝食欠食改善と望ましい食生活の習慣の形成のみならず、地域との共食の場となっていて、仮設住宅から出られた後も今後、コモンミール活動という形で継続していく予定になっております。</p> <p>この1年間でこの活動に参加して、食事を食べた学生は1,000人を超すといわれておりまして、今本学で非常に注目されている活動になっております。</p> <p>最後にちょっと誤字の訂正をお願いしたいのですが、朝ごはんフェアの一番下の行、「最近」のあとに「講演会」という字が、後ろという字と援助の援の、後援名義の後援という字に直していただきたく存じます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。ここで大学の取り組みということで、私のほうからもご報告申し上げたいと思います。23ページになります。まず1つ目ですけれども、防災食育講座を大学の中でさせていただきました。</p> <p>防災講座ですから、やはり備蓄をしておかなければということで、その中でも日本の伝統的な発酵食品であるみそづくりをしました。みそは大豆と米麴と塩さえあればできます。大豆はしっかり煮ないといけないので、煮るところまではこちらでさせていただいて、混ぜて発酵熟成さ</p>

	<p>せました。3カ月4カ月だと白みそですかね。半年以上置かないといけないわけですがけれども、置いておけばいざというときに、たんぱく源にもなるし、調味料にもなるということも学びました。また、常備菜も作りました。</p> <p>常備菜を知らない学生もありました。要するにしょう油漬けや、ドレッシング漬けにすると4～5日は日持ちする、というのですが、そういったものが常に冷蔵庫の中にあれば、いざというときに役立つということを、講座の中に盛り込ませていただきました。</p> <p>そして最後にちょっとアンケートを取らせていただきまして、常備菜について理解したか、これからの危機に備えて意識が高まったかどうかということも伺いました。そのときは意識が高まったのかなと思うんですが、喉元過ぎればまた元に戻るかと思しますので、非常時の食というものは毎回やっていきたいと思っているところです。</p> <p>それからその下のものは一般市民の方を対象にした4回シリーズの講座で、それぞれ担当者が違いまして、私は、第3回の体脂肪燃焼効果のある食材を使って食事を作りましょうというところを担当しました。</p> <p>体にたまった脂肪を燃焼させて、美しく健康な体を保ちたいと思う人は多いのではないかと思います。脂肪燃焼効果のある食材として皆さんご存知のとおり、生姜・唐辛子が出てくるかと思いますが、今回はどのような栄養素、機能成分に脂肪燃焼効果が認められているのかということをお話しさせていただきまして、そういった栄養成分、機能成分を含む食材を使いまして、献立をこちらで立てまして、実習をしていただき、そしてそれを食べたときに、ぽかぽかと体が熱くなるということも体験していただきました。</p> <p>内容的には本当に日常的な食材ですから、こんな食材でもできるんだということがわかってもらえたというところがありますし、非常に体があったまるということも経験していただきました。</p> <p>4回目は体を動かしましょうということで、食べるだけではなくて、体も実際に動かしていただくというシリーズの講座でございました。以上でございます。続きまして仙台市の取り組みについてご報告をお願いしたいと思います。まず子供未来局からお願いいたします。</p>
福田委員	<p>仙台市の子供未来局でございます。大変お世話になっております。資料は27ページからになります。保育所の保護者への情報発信ということで、真ん中の3番目のところに、親子調理活動拡充というのがあります。保育参観ですとか懇談会の場を利用しまして、子ども・保護者、親子で調理活動を楽しむというイベントです。こういった体験を通じて、家庭</p>

	<p>でも食事づくりへの興味関心が高まるということを期待して行っているものでございます。</p> <p>今年度拡充とありますけれども、それぞれの保育所で行われていた、いろいろな取り組みを実践事例集として取りまとめをしまして、それをまた各保育所に配布をして、それぞれの保育所での活動の回数や、内容の充実を目指しているところでございます。</p> <p>それから 28 ページの真ん中から下の部分です。妊産婦、乳幼児の食事についてのきめ細かい指導、支援ということで、各種健診の際のほかに訪問相談ということで、地域の子育て家庭に訪問をして、離乳食や、幼児食についての悩みなどに対する相談指導なども行っているところでございます。</p> <p>それから次の 29 ページ、上から 2 つ目のくくりですが、保育所の食育計画ということで、仙台市で作成しております保育所における食育の手引きというのがあります。これを基に全保育所で食育の計画を作成し、保育と連携した食育を展開しているところでございます。子供未来局の取り組みは以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それでは経済局お願いいたします。</p>
石川委員（代理で森下農林部参事）	<p>経済局農林部の森下といいます。よろしくお願いたします。経済局の取り組みにつきまして、紹介させていただきます。経済局では地産地消の推進、食材としての農産物の生産振興に取り組んでおります。また中央卸売市場を所管しております。こういったことから食育推進ということでは、農産物の利用促進や生産・流通・消費の相互理解ということの施策を進めております。</p> <p>特に食育推進計画では、3 本目の柱の地産地消を進めようというところの課題を中心に取り組みを行っております。お手元の資料 31 ページからの説明になります。先ほど J A 仙台さんのほうからお話もありましたが、学校給食連携事業、我々愛称を「ここで給食」と言っておりますけれども、この取り組みでございます。</p> <p>ここで給食につきましては、昨年度から実施しております、仙台市経済局、教育局、それから J A 仙台さんが連携しまして、仙台産農産物一品を給食に取り入れて、子どもたちに旬の地場食材を実感してもらい、仙台産農産物の認知度を向上させて、消費拡大につなげていこうという取り組みになります。</p> <p>今年度につきましては、これをさらに発展させまして、給食で使用する野菜のほぼすべてを仙台産で賄うということで、まるっと仙台産農産物の日というのを設定しまして、先ほど紹介ありましたが、市内</p>

	<p>の学校計 10 校に参加していただきまして、実施をしております。</p> <p>子どもたちからは「こんなにたくさんの野菜が市内でとれるというのがわかってよかった」といった感想が寄せられております。この事業につきましましては、来年度以降も規模を拡大して実施をする予定にしております。</p> <p>それから資料 31 ページ目の中ほどの 3-B のところでございます。生産・流通関係者との交流体験の場をつくる取り組み、1 の 1 せんだい産農産物表示マーク、愛称「ここでちゃん」の普及といった地産地消の PR 活動、生産現場の見学や栽培体験。</p> <p>それから 1 枚めくっていただきまして、32 ページ目 2 の 2 の地産地消サポーター事業、直売による生産者との交流の機会をつくる、2 の 1 の旬の香り市、それから 33 ページ目、4 の 2 エコファーマーフェアの開催等々、地場産の食材や地産地消に向けて、市民の方に広くご理解いただけるような機会づくりという取り組みを行っております。</p> <p>中央卸売市場につきましましては、ページ戻っていただきまして、31 ページの 3 番です。NHK テレビ番組『旬の金曜日～市場中継～』での旬の食材紹介でありますとか、小学校、一般市民向けの市場見学会というのを、昨年度に引き続きまして実施をしております。</p> <p>ただいまご説明しました資料をはじめとしまして、経済局では引き続き、さまざまな工夫を凝らしながら、食育の推進に取り組んでまいりたいと考えております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>NHK のひるはびの放映はもう全部終了したんですか。『旬の金曜日～市場中継～』ということで、宮城県の旬の食材の紹介というのは市場の中ですか。それともそれぞれの地域に行って、旬の食材を放映されたんですか。</p>
中央卸売市場 業務課長	<p>中央卸売市場の業務課長でございます。ひるはびは市場内に仮設のスタジオがありまして、そこで収録をして、その日のうちに放送するというスタイルで毎週やっております。</p>
高澤会長	<p>そうだったんですね。地域に行ってというよりは、もう市場の中にあるんですね。ありがとうございます。それでは次に教育局お願いいたします。</p>
大越委員（代理で木村総務 企画部長）	<p>それでは教育局の事業でございます。資料は 34 ページになります。まず一番はじめの①-A-1 ですがけれども、学校給食フェア、こちらは文科省で定めております全国学校給食週間、毎年 1 月 24 日から 30 日でございます。これに関連いたしまして、先ほど学校現場の取り組みにつきましましては、熊谷委員さんのほうからお話がございましたが、市役所のほうで</p>

は本日から5日間、市役所の地下食堂で、日ごとにある学校の給食メニューをそのままメニューとして提供しております。

それから1階にギャラリーホールという部屋がありますが、そちらで昔の給食の献立のサンプルですとか、給食のこれまでの歩みといった様々な給食関係の展示を行っております。

次に、次の段の①-B-3の1ですけれども、「仙台市健やかな体の育成プラン」でございます。これにつきましては平成24年度に、今後目指すべき10年後の児童生徒の姿というものを掲げて策定しております、食育、学校体育、学校保健、この3分野にかかる取り組みを総合的に推進してまいりました。

5年が経ちましたので、平成27年度末時点での実施状況などを踏まえまして、今後5年の新たな施策を展開するものとしたしまして、今年度健やかな体の育成プラン2017というものを新たに策定、外部の委員さんが入って原案はできておりまして、明日の教育委員会のほうで議決をいただいて、成案になるという予定になっております。

この中で食の現状に関しまして、朝食で主食とおかずをしっかりと組み合わせるという割合がなかなかふえていない。それから一人で食事をする個食といった実態の課題というものが示されておりまして、1日3食をバランスよく食べる食習慣の定着を目指して、学校における食に関する指導の推進ですとか、学校でできることは限界がありますので、主に家庭への啓発といったことを中心に取り組んでいくこととしておるところでございます。

続きまして35ページの中ほど①-B-9の1、親子食育講座でございます。こちらは小学生とその保護者を対象にして、社会学級ですとか、PTAの方々のご協力を得て実施しているものでございます。例年、地産地消や朝食づくりをテーマとした調理実習や講話など、各団体においてさまざまな内容を取り上げておりまして、参加した方からは家庭で食について考えるよい機会になった、というようなお声をいただいております。

今年度の実施状況ですが、事業自体は1月末日までの間に実施するよう取り組んでおりまして、まだすべて完了しておりません。結果については来月取りまとめることとなっておりますので、現時点ではデータは出ておりません。

最後に36ページの2つ目、学校給食連携事業、これはまるっと仙台産農産物の日ということで、先ほどJAさんとそれから経済局のほうからお話がありましたので、ご紹介しようかと思つて、用意しておりましたが説明が先ほどありましたので、省略したいと思います。教育局の分と

	しては以上でございます。
高澤会長	ありがとうございました。それでは健康福祉局お願いいたします。
佐々木委員	<p>健康福祉局は 37 ページからですが、3 つの取り組みについてご紹介いたします。はじめに 39 ページの一番上、大学との連携による若い世代への食育推進事業でございまして、これは市内の管理栄養士養成課程がある 3 つの大学の学生をメンバーとしたプロジェクトでございます。</p> <p>食への関心が薄い世代に対し、同世代の発想で啓発を行うことを目的に活動してございまして、今年度は若いころから塩分の取り過ぎに注意するといった塩エコのリーフレットを作成いたしまして、大学祭ですとかオープンキャンパス、成人式、PTA フェスティバルなど子育て世代の方も集まるイベントでも啓発を行っております。</p> <p>次に 40 ページ、一番上の食育推進連携事業「Morning Vegetable」ということで掲げておりますが、こちらは太白区家庭健康課の取り組みでございまして、23 年度から Morning Vegetable と、朝食に野菜をとということで、モーベジの愛称で事業を進めております。若い世代や子育て世代に対し、朝食に野菜を食べることを進めるという取り組みでございまして。</p> <p>今年度は幼稚園向けに、夏休み中の朝食に野菜を食べたらシールを貼る。皆さんのお手元にこういった資料としてお渡ししてありますが、7 月 8 月のカレンダーがございまして、朝ごはんに野菜を食べたらシールを貼るということで、各家庭のほうに配布してございます。</p> <p>太白区内幼稚園 16 施設、子どもさんで 2,980 名の方に配布いたしまして、この取り組みについてはさらにこのモーベジ通信アルファ特別号ということで、お子さんたちが野菜を食べるということを毎朝意識するようになったということで、大変好評いただいております。</p> <p>それから最後になりますけれども、50 ページをご覧ください。上から 2 つ目 4 の食品の安全性に関する講演会の開催でございます。先週になりますが、1 月 17 日に、資料には詳しく記載してはございませんが、市民を対象にした食品の安全性に関する講演会を開催いたしました。</p> <p>今年度は国立医薬品食品衛生研究所安全情報部の畝山部長さんを講師にお招きいたしまして、安全な食品って何だろうというテーマで、食品のさまざまなリスク、分析といった内容でご講演をいただきました。当日は約 140 名の方が参加しまして、講師と参加者との間で意見交換も活発に行われたということでございます。私からは以上でございます。</p>
高澤会長	ありがとうございました。このモーベジカレンダー、子どもたちはとても、興味を持ってシールを貼りますよね。これは回収はしないんです

	か。
太白区家庭健康課長	<p>太白区家庭健康課の菊池と申します。下のところに保護者からのコメント欄がありましたので、こちらで一度回収させていただいて、コピーを取らせていただいて、お返しをするという形を取らせていただきました。</p> <p>そのときに合わせて、がんばったでしょうというチャレンジ賞という表彰状を合わせてお渡しするようにさせていただきました。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。子どもたちもそれだと喜ぶのかなと思います。皆様それぞれの主体の特徴を生かした活動が展開されていると感じました。ここで市民公募委員の亀山委員と齋藤委員から、これまでの取り組みを聞かれまして、ご感想をお聞きしたいと思います。それでは亀山委員からお願いいたします。</p>
亀山委員	<p>皆さんの活動を大変興味深く拝聴させていただきました。事前にいただいた資料を見ていて、最初にドキッとしたのが1ページの医師会の1番上の、小・中学生対象の糖尿病や生活習慣病の検査です。こういった検査が実施されるような時代なんだというのが衝撃的でした。だからこそ先ほどのモーベジであるとか、小学校や幼稚園の食育が本当に大切だと感じました。</p> <p>先ほど小島委員のほうから、計画を立てる先生方にも戸惑いがあったりということで、講演をなさっているとか、宮城大学の先生も教員向けに食育の指導をしているというのは、とても有意義な活動だと思いました。</p> <p>あとはメロンさんのオーガニック商品の紹介ですとか、生協さんの日本型の食生活、古今東北など、社会貢献や食育につながるようなことがブランドとなっていくことは、食育イコール爪に火を灯すように頑張らなきゃいけないということではなくて、関わる人たちも楽しかったり、いいことがあるということで、社会に広がっていくのはすごくいいことだと思いました。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。それでは齋藤委員お願いいたします。</p>
齋藤委員	<p>私は、先ほど何度も出ている学校給食フェアのほうに行かせていただいて、早速食べて来ました。そうしたらたくさんの市民の方もいらっしゃっていましたし、メニューが仙台大豆を揚げてソースにからめたもの、それから曲りネギを使ったスープでした。本当に甘くておいしくて、塩分控えめでもスープがとてもおいしい。これだったら本当にいい給食だと思いました。ただ、今日これをおいしいってだけ食べて帰ってしまったら何にもならないなと思ひまして、今日家に帰るときに仙台曲りネギ</p>

	<p>を選んで帰るとか、仙台大豆を買って帰るとか、何かやっぱりアクションを起こさなければ、食育というものはキャッチボールみたいなもので、行政関係者の方、学校関係者の方がせつかく市民に向けて投げてくださいったボールをきちんと受け取るのか、見逃すのか、それとも後ろに外してしまったりするのかっていう問題があるのかなと思いました。</p> <p>アクションを起こさなければ、何もならないものに終わってしまう可能性がある、今日は本当に学校給食フェアでおいしい思い、そして先生が先ほどおっしゃったように、あったかいものやネギなどを食べると体がぼかぼかしてあったかくなる。それから大豆を食べると、精神的に落ち着いてきます。今ちょっとドキドキしているので、説得力ないですが。</p> <p>大豆を食べて元気になるとか、体を通して経験することで子どもたちや市民の方々も実感して、それをまた実践して継続して伝えていくという動きにできるのではないかと思います。</p> <p>後期の計画にも出てくると思うんですが、これから策定する計画の中には、先ほど会長がおっしゃったように、食べることは生きることだという、その共通認識を皆さんで共有する。</p> <p>食が体に及ぼす影響が大事だということを、市民なり、それから国民も県民も、その意識を共有するということが、まず一番に根底で大事なことだと、今日は感じさせていただきました。本当にありがとうございます。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。食べておいしいと、非常に満たされた気持ちになって、セロトニンが出まして、免疫力も高まるともいわれているので、おいしいものを提供し、おいしいものを食べて、そしておいしかったねという経験があって、それがまた食べたい、そしておいしいんだよ、と今度別な人に伝えるということが、どんどん広がっていくと良いと思っておりました。</p> <p>ありがとうございました。それでは皆様からお話いただきました事業実施状況、ご意見等につきまして、情報交換を行いたいと思いますので、ご発言をお願いしたいと思います。もし言い忘れたことや、ぜひ言いたかったというものがありましたら、この場でお願いしたいと思います。</p> <p>それではちょっと私のほうから、幼児教育の立場で、幼稚園連合会、保育所連合会の小島委員、あるいは早坂委員でもよろしいかと思います。子どもたちに食べるのが楽しくなる食育を通しまして、みんな楽しくなって興味を持ってやってくれたというお話をお聞かせいただけた</p>

	<p>らと思います。小島委員のほうからお願いしてよろしいでしょうか。</p>
小島委員	<p>うちの園に限ってお話しさせていただくと、ニワトリを飼っていて、ニワトリが毎日卵を産むんですね。最初は子どもたちにそれを、おうちに持って行っていいよと言っていたんですが、それだとちょっとあまりよくないというか、一人がいっぱい持って行っちゃうようなことが出てきてしまったので、ある程度たまったら、今回は一番小さいクラスで使っていいよということ今年始めてみました。</p> <p>小さいクラスだと、調理の体験はすごく少なかったんですけども、今年はその調理体験が一番小さい2歳児のクラスでも何度も行われて、その都度クッキー、ホットケーキ、クレープなど様々なものを作りました。最初は先生がやっていたんですが、段々と子どもたちが今度何々つくりたいって言ったら、近くのスーパーに食材も買いに行ってみようとか、お母さんから、こういうのがつくれるんじゃないかという提案があったものについて、子どもたちが自分たちで小麦粉がいるよとか、バターがいるよということなどもお母さんから聞いて情報を得てつくったりということも広がってきています。</p> <p>食育が一般的になる前までは、盛んに行われてこなかったんですが、やはり食育がとても大事だということがいわれ出しましてから、子どもたちと一緒に食を、何かの形で組み立てていくという体験がすごくふえてきていて、子どもたちも本当にそういう意味では、先ほど先生おっしゃいましたけど、おいしいってということと、自分たちでそのことをどう組み立てていくかということが、段々と自然にできるようになってきているんじゃないかなと感じています。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。早坂委員何かございますか。</p>
早坂委員	<p>保育所って両親が働いて、子どもを保育園に連れて来るんですね。抜き打ちに、子どもたちに今日食べてきたものを絵に描いてとって描かせると菓子パンと甘いジュースとか、菓子パンと何かヨーグルトとか、そういうのなんですね。</p> <p>そういった食事をしてくると保育所も午前中非常に活動しますから、体力持たないんですね。何かちょっと元気ないなと思う子はきちんと朝食を食べて来ないことがあります。</p> <p>お母さんたちは朝は時間がないし作っても食べないから作らないと言いますが、お子さんと一緒に食べるようにして、菓子パンでもいいから、そこにお豆腐の味噌汁をつけてくださいと言ったんです。そうしたら次の日、子どもたちが「園長先生、お豆腐の味噌汁、今日食べてきたよ」と言ってきたんです。やはり教育なんですね、食育っていうのは。</p>

	<p>また、うちの子は野菜を食べないという話も聞きますが、うちの園ではにんじんなどは種から育てています。そうすると子どもたちは自分たちで育てるから、収穫したニンジンをして洗って棒状に切っただけでもおいしいと言って食べます。とても野菜が大好きになって、随分この子どもたちは体格いいねと言われることもあります。</p> <p>また、農協さんのお手伝いをいただいて、ジャガイモやサツマイモなども保育園で収穫しています。種をまいたものが大きくなるというのが子供たちにとって驚きなんです。</p> <p>そういった驚くこと、わくわくすることを子どもが体験すると感動し、心が動きます。それは家庭での会話にもつながり、例えば買い物しているときに、うちで食べたことのない野菜を買ってと言ったりします。こういったことから教育はとても大切だと日々思っております。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。そのほか、皆様のほうから何かございませうでしょうか。それでは、今年度の事業は3月まで継続するものもあろうかと思いますが、皆様のご意見、取り組みなどを参考にさせていただきまして、今後の活動につなげていただきたいと思います。</p> <p>それでは次に議題の2つ目に入りたいと思います。今回は仙台市食育推進計画第2期後期計画策定に向けてということで、第2期の計画の指標の達成状況や中間評価のために実施した調査の結果などにつきまして、健康政策課長からご説明をお願いしたいと思います。</p>
健康政策課長	<p>それでは後期計画策定に向けて説明をさせていただきます。まず資料の2-1をご覧ください。こちらは仙台市食育推進計画第2期の指標でございます。このうち現在把握できている項目につきまして、数値の掲載をしまして、平成21年と比較して数値が上がっている項目については丸、現況値が下がっている項目については三角下向きの印を入れてあります。目標値が達成している項目は二重丸で示しております。</p> <p>こちらを見ていただきますと、全体的にはちょっと三角が目立つところではございますが、まず食育に関心がある人の割合です。平成28年度の現況値は21%ということで、やや下がっております。目標値は70%でございますけれども、「関心がある」と、「どちらかと言えば関心がある」の割合を合わせますと、67.6%ということで、かなり目標値には近づいている状況になっております。</p> <p>朝食を毎日食べる人の割合では、20歳代30歳代男性の朝食を毎日食べる割合は高くなっていますが、20歳代女性では下がっております。適正体重にある人の割合では、20歳代女性のやせ、40から60歳代女性の</p>

肥満は減少していますが、20 から 60 歳代男性の肥満の割合は、前回の調査と比べて微増となっております。

次の資料 2-2 をご覧ください。こちらは国の第 3 次食育推進基本計画の指標とされて、かつ本市のこれまでの指標にはないものでございます。従いまして後期計画に盛り込む必要のある指標でございます。こちらも本市の現況値が把握できているものについて、合わせて掲載をしております。

今日は参考資料 2 として、横書きの資料をおつけしておりますので、こちらも合わせてご覧いただきたいと思っております。国では、平成 28 年度から第 3 次食育推進基本計画がスタートしております。

2 枚目の重点課題をご覧ください。若い世代を中心とした食育の推進、食の循環や環境を意識した食育などが新たに盛り込まれておりますので、こういった視点を参考にしながら、仙台市の後期計画も考えていく必要があると思っております。また資料 2-2 にお戻りいただいて、仙台市の状況と国の状況を見ていきますと、国の指標には共食に関する項目、20 から 30 歳代の若い世代に特化した項目が新たに盛り込まれていまして、こちらは資料の網かけで示した部分となっております。

全体的に仙台市の現況値が低い状況となっておりますが、これは内閣府の調査と仙台市の調査の方法に若干違いがございまして、内閣府では資料の下部にありますように、調査員による個別面接聞き取り法を取っていることが、若干影響しているということを加味する必要があると考えております。

次に資料 2-3 をご覧ください。この仙台市民の健康意識等に関する調査は、食育推進計画及びいきいき市民健康プランの中間評価を行うにあたって、根拠となる調査ですので、概要についてご説明いたします。

今回の調査、無作為抽出しました 20 歳以上の市民 6,000 名に調査票を郵送し、2,555 名から回答を得ております。有効回答率は 42.8% ございました。現在詳しい分析を行っているところですが、この資料では食育関連項目について結果をまとめてございます。

2 ページ目から設問ごとの集計結果を記載しております。表については左側が今回の調査結果、右側には参考としまして、前回調査の結果、または 27 年度の内閣府の食育に関する意識調査の結果を記載してございます。また、右側に何の記載もない項目もございまして、これは仙台市でこれからの食育活動を考える上で、状況把握をするために、新たに仙台市独自として調査を行った項目になります。

資料の 5 ページをご覧ください。食育の認識についての項目です。①

	<p>「食育」という言葉について、意味や言葉を知っていたかという設問で、言葉も意味も知っていたと回答した割合が前回調査、内閣府の調査と比較して高いのに対し、②の「食育」への関心度については低いという結果となっております。</p> <p>また7ページをご覧ください。⑦の糖分を含む飲み物を飲む頻度、また8ページの⑩の食品表示に関する設問については、独自で加えた設問でございまして、仙台市は肥満やむし歯が多い傾向がございまして、このあたりを分析し、今後の取り組みを考える参考にできればと考えております。</p> <p>参考資料の1としまして、今回の市民の健康意識等に関する調査の調査票をお配りしておりますので、ご高覧いただきたいと思っております。以上でございます。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。それでは皆様からご質問、ご意見等ちょうだいしたいと思いますが、いかがでございましょうか。鈴木委員お願いいたします。</p>
鈴木委員	<p>先ほどもご意見ございましたが、今日は出席されておられません、医師会の先生方、子どもの糖尿病について非常に危惧しているところがございます。仙台市の特に子どものむし歯が全国に比べて非常に多くなっております。むし歯の対策はむし歯の対策で健康福祉局の中で、非常に一生懸命やっただいてはおりますが、やっぱり食育とは切っても切れないようなところがございますし、あとは糖尿病と歯周病の関係というのも非常に深いものがありまして、日ごろから危惧しているところがございます。多くの患者さんは砂糖とか、砂糖入りの飲み物は体にはあまりよくないということはお存じですが、例えば寝ている間の脱水の予防に寝る前にもスポーツドリンクを飲みなさいといったようなテレビ番組やコマーシャルに負けてしまっている部分があるように感じております。</p> <p>やはり我々はこういった会議を通して、商業ベースに負けないで市民の方に正しい情報をきちんと伝えていく義務があると思っておりますので、仙台市の今回の調査で、甘い飲み物に対して、しっかり調べていただいたことを嬉しく思います。</p> <p>私が本日持参しました追加資料をご覧ください。ちょっと前のニュースではありますが、WHO が、1日あたりの摂取糖類を以前は摂取カロリーの10%としていたのを、5%未満にするべきだと提案し、アメリカの砂糖関連業界などが強く反発していたので、なかなか実現できなかったが、ようやく実現したということが書いてあります。</p>

	<p>やはり砂糖に対する警告を、これからしっかりやっていかなければならないと思います。特に甘い飲み物でかなり大量に取ってしまうので、せっかく今回調査していただいたので、今後につなげていただきたいなと強く思います。塩エコもとても素敵な取り組みだと思いますが、今度は砂糖エコといったような取り組みを実施し、はっきりと数字で出していけるような形にしていいただければ、と思いました。以上です。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございます。清涼飲料水は、1本飲むだけでも多量の砂糖を取ってしまうことがあります。参考までですけれども、清涼飲料水には異性化糖という糖が含まれております。100ミリリットルあたり12グラム、要するに12%含まれていて、それを500ミリリットル飲めば50グラムの糖を取ってしまうということになります。</p> <p>異性化糖とは、トウモロコシのデンプンを分解して、ブドウ糖にし、そこに酵素を作用させて、ブドウ糖と果糖にしたものです。それを清涼飲料水に加えています。トウモロコシのデンプンというのは、いわゆる遺伝子組み換えのトウモロコシです。</p> <p>遺伝子組み換えのトウモロコシは非常に安く外国から入って来て、それを分解して糖にして、さらに酵素で反応させて、ブドウ糖と果糖にします。果糖というのはブドウ糖よりも非常に甘味が高いものでありまして、そういった異性化糖というものも清涼飲料水の中には存在していて、それがやがて体を蝕むというようなことも危惧されているというのが現状のようであります。参考までにでございます。南委員はいかがでしょうか。</p>
南委員	<p>今、先生方のいろいろなご提案、並びにいろいろな説明をいただいて、本当に確かにそうだと感じます。現在私ども患者さんと面談することがたくさんありますが、まず朝食を食べない習慣の方が随分たくさんいらっしゃいます。それでいろいろな疾病にかかっている方もたくさんいらっしゃいます。そういったことも含めて、糖の摂取量というのは非常に身近なもので、ひしひしと感じるものがあります。</p> <p>ついでで申し訳ございませんが、資料の2-3の仙台市民の健康意識等に関する調査の中で、6番目のところに突然糖尿病が引き起こす合併症の認知というのが出てきて、また後ろのほうに食品に関する項目が出てきているんですね。</p> <p>せっかくこのアンケートを取っているのにもったいない、多分このデータは宙ぶらりんの状態で集計になっていくのかなと思いますので、今の砂糖の問題も含めて、もうちょっと別な欄で、調査していただくといいのかなと思っておりました。</p>

高澤会長	<p>ありがとうございました。そのほかございますか。中野委員、お願いいたします。</p>
中野委員	<p>感じたことなんです、いろいろなところでやっていらっしゃる食育のセミナーといったものに来る方っていうのは、非常に関心が高い方だと思います。ですからそこをさらに上げるというよりはむしろ来ない人をどうするか。</p> <p>今回のアンケートもそうですが、アンケートに答える人はまだ関心があるかもしれない。しかし半分近くの回答していない方にどうやって食育という言葉覚えていただいたり、関心を持ってもらうかということにむしろ注力をしていただければ、と感じた次第でございます。以上です。</p>
高澤会長	<p>そのことにつきましては、誰しもがそう思っていることではないでしょうか。教育局の委員の方、いかがでしょうか。</p>
大越委員（代理で木村総務企画部長）	<p>今いろいろお話出ていましたけど、全くそのとおりでございまして、先ほど事業紹介の中でもお話ししましたが、来年度から新たなプランの下で子どもたちの健康づくりに取り組んでまいります。学校給食は今までもバランス良く、栄養をちゃんと取れるように配慮しておりますが、給食以外の朝食と夕食がきちんとできないと子どもの正しい発育にはつながらないということがございます。学校給食というのはもともと生活の問題等でちゃんと栄養を取れない子どもたちに学校ではきちんと栄養が取れるようにしたのが制度のスタートです。</p> <p>現在子どもの貧困がニュースになっておりますが、実は貧困と食生活はあまり関係なくて、裕福と思われる人たちであっても、食の面では貧困になっていてバランスが悪いこともあり、やはり意識の問題でしかないと思います。</p> <p>共稼ぎのご家庭もふえていて、先ほど菓子パンっていうお話もありましたが、朝も夜もコンビニ弁当で済ませたり、家で食べるにしても、スーパーで売っている出来合いの総菜をそのまま持って来るといった感じで、せっかく給食でバランスを考えていても、総合的に見たときにはやはり問題があると。</p> <p>それは誰がどうすれば解決するのかというのはなかなか難しいところでありまして、やはり大事だということをずっと声を出し続けていくしかないのかもしれないのですが。やはり保護者一人一人が自覚を持って対応していただかないと、そうやって育った子どもが自分の体が不健康だという状態を引き起こすと同時に、次の世代に対しても、食に関心を払わないとなってしまうと、将来的に日本人はどうなってしまうのだろ</p>

	<p>うといった懸念もあります。</p> <p>学校でできることには、限りはありますが、地道な努力を積み重ねていく必要があると思いつつ、何かいい対策はないのかということも今いろいろお話を伺っていて、感じたところでございます。</p>
高澤会長	<p>そうですね、なかなか難しいところがあるかと思いますが。それでは熊谷委員お願いいたします。</p>
熊谷委員	<p>それでは学校でというお話もありましたので、お話ししますと今、統計で出た中間報告、資料 2-3 に出てくることは、学校でも調査している生活実態調査と非常に合っていて、朝食はほとんどの子が食べてきますが、その中味となると、やはり副菜や汁物、うちの学校の 4 年生の場合は汁物をあまり食べていないという実態も出ました。</p> <p>学校は学びの場で、その学びを実生活に生かすのはやはり家庭ということになります。自分の朝食を見直して、改善しなきゃいけないと思わせるところまでは授業でやり、さらに自分ならこうしようという目標をたてる場所までは学校で行いますが、それを実践するのはやはり家庭の場になって、家庭の協力を得ながらというような形になっています。</p> <p>しかもそれを 1 回きりじゃなくて、そういった取り組みを継続的にやっていくと。そのための手立てとして、太白区さんはカレンダーにシールを貼るということだったり、保護者の方のコメントを書く欄があったりしますが、学校も同じようにワークシートをつくって、家庭と協力を取っています。</p> <p>今日そのときの授業のワークシートで、お母さんに書いていただいたコメントの一部でいいな、と思ったものを紹介します。この子は自分の目標を「早起きをする」つまり朝食を食べる時間をしっかり取るということと、「親と話す」というのを目標にしていました。</p> <p>「時々、明日は何にしようねとお母さんと話せました。最近をよくお母さんと話すようになって、3つのグループの食品をバランスよく、おいしく食べられました。このように話すことをこれからも頑張りたい」と書いていまして、お母さんのほうは「食事についての会話がふえました。毎日バランスのよいメニューになっているかをチェックされています」ということで、お子さんにチェックされていて、気の毒だなども半分は思うんですが、実践ということでは非常によい成果の出た例かなと。</p> <p>「今後も栄養バランスや食について興味を持って、親子で食を楽しみたいと思います」というような感想をちょうだいしまして、非常によかったと思っています。</p> <p>食を通じて親子のコミュニケーションがふえたり、一緒に朝食をつく</p>

	<p>る、献立を考える、などと非常に発展性が見えてくる取り組みになるのかと思います。</p> <p>食育の強みはやはり、必ず毎日子どもたちも食べるということで、算数でも同じようなことをねらいますが、算数だと家に帰って使わない日も多いですが、食の場合だと必ず食べるので、そこが非常に手がかりにもなりますし、いろいろな工夫ができる要素のあるところだと感じております。以上です。</p>
高澤会長	<p>そのようにほのぼのとした家庭だとありがたいですね。菅原委員のみやぎ・環境とくらし・ネットワークの若い世代を対象とした取り組みではどうですか。</p>
菅原委員	<p>仙臺農塾というものなのですが、今日パンフレットを持ってきたんですが、こんな形のパンフレットのデザインになっていまして、こちらは元学生さんで、今は印刷会社に勤められている方にデザインしていただいています。やはりこういった興味を引くようなものも効果があるのと、あとは仙臺農塾という取り組み自体がフェイスブック上でやっているということもありまして、比較的若い世代の方々に参加していただいています。</p> <p>講座自体が連続講座になっています。毎月開催されているわけではありませんが、それぞれの開催日、開催の会によってテーマが異なります。今回の食育推進事業の状況報告の際にも、複数の柱にまたがった取り組みということで、複数ページにまたがってしまったんですけども。</p> <p>例えば農法をテーマにした際には農法を教える側の方を講師に招いて講座を実施したり、あとは野菜ソムリエの方を招いて、地元の野菜についてお話ししていただいたりしました。野菜の会は野菜ソムリエの方が講師だったということもありますが、比較的若い女性の方が多くいらして、テーマでやはり参加する年齢や、性別は変わってくるかと思います。</p> <p>また、アンケートを取ったときに、多分お子さんがいる方だと思いますが、家庭に帰って、子どもに伝えたいという感想を書いていた方もいらっしゃいましたが、そこがまだ足りていない部分ではあると思いました。</p> <p>水曜日の7時から9時までの時間帯で講座を実施しているんですが、その理由としては、企業に勤めていると大体水曜日に定時退社日が設けられているかと思ひまして、仕事が終わった後にも参加できるようにということで、その時間帯で講座を開催しているんですが、やはり子どもがいる家庭では、参加は難しいかと感じることもあります。大人の食育</p>

	<p>をテーマにしている、20代30代の若い社会人の方で、忙しくて、コンビニ弁当や総菜の利用が多く食事がおろそかになっている人を対象にしていますが、ご家庭のある方にも、家庭に持ち帰っていただいて、お子さんたちにもどんどん広めていただきたいというのは思いとしてはあるので、いろいろと皆さんのご意見などもいただきながら、その部分へのアプローチについても検討していきたいと考えています。</p>
高澤会長	<p>そうですね、参加された方がまだ参加されていない方に情報提供して、興味を引くようなことがあって、今度一緒に参加しましょうといったような何か引っ張れるような状況が出てくるといいのかなと思います。渡辺委員、どうぞ。</p>
渡辺委員	<p>すみません、活動のことではありませんが、食育推進計画のことについてよろしいですか。前回2期の後期計画策定に向けて、スケジュールをお示しいただいたかと思いますが、今回市民に向けての調査等について報告いただきましたが、今後策定に向けて、どのようなスケジュールがあるのか、そのあたりを教えてくださいたいと思います。</p>
高澤会長	<p>健康政策課長お願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>具体的な計画策定につきましては、平成29年度に皆様からご意見をいただきたいと思っております。この食育推進会議が例年ですと2回開催ということでございますが、来年度は3回の開催となります。今回は調査の結果につきましては、中間報告ということでございましたが、年代や性別といった要素も加えてさらに詳しく分析したものを皆様にお示ししたり、後期計画の骨子についてご意見をいただきます。皆さんからの意見をまとめて素案を策定し、市民へのパブリックコメントで広くご意見をいただいた上で、3回目の会議で最終的な計画案といったところまで進めさせていただければと思っております。</p>
佐々木委員	<p>付け加えますと、29年度は5月か6月に1回目を開催して事務局のほうから骨子的なところをお示しいたします。また今回のアンケート調査ももう少し詳しいこと、国のほうの動きも合わせて皆さんにご提示いたします。その後9月くらいになるかと思いますが、2回目の会議を開催いたしまして、少し肉付けをし、中間素案的なところをお示しして、ご意見をいただく予定です。</p> <p>そして市民の方にパブリックコメントの形でご提示いたしまして、ご意見をいただいて修正を加えると。年明けくらいに、再集計を事務局のほうでまとめて、また皆さんにご提示するという流れになります。</p> <p>この間、3回の全体会議になりますが、委員の皆さんには資料を送付して、ご意見をいただきながら、3回の会議に限らない意見交換もでき</p>

	ればと考えております。
高澤会長	<p>ありがとうございました。新しい食育推進計画ということで、新年度はまた今年度と違った形で進めさせていただくということになるわけでございます。</p> <p>これまでの取り組みに対しましての評価、課題の洗い出しをしながら、この会議の中で協議を重ねまして、後期計画を策定していくということになります。どうぞよろしく願いいたします。本日の議題は以上でございます。最後にその他の項目ですが、委員の皆様、あるいは事務局から何かございますか。健康政策課長お願いいたします。</p>
健康政策課長	<p>事務局から連絡がございます。皆様の食育活動を事例集という形でまとめさせていただいております。今年度も事例集を作成したいと思いますので、事例の提出についてよろしく願いいたします。また次回の会議については先ほどお話がありましたように、5月末から6月ごろを予定しておりますので、どうぞよろしく願いいたします。</p>
高澤会長	<p>ありがとうございました。ほかにごございませんでしょうか。それでは以上で議事を終了させていただきます。事務局に進行を引き継ぎさせていただきます。よろしく願いいたします。</p>
進行	<p>ありがとうございました。以上を持ちまして平成28年度第2回仙台市食育推進会議を閉会いたします。委員の皆様、ありがとうございました。</p>
	—了—

平成 年 月 日

署名委員